

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200927		
法人名	有限会社 かたやま		
事業所名	グループホーム ひなた 1ユニット		
所在地	赤磐市殿谷32-1		
自己評価作成日	令和4年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372200927-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県野市迫間2481番地7		
訪問調査日	令和4年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年開設18年を迎えました。多くの出会いの中で、沢山の事を学ばせて頂き今があります。介護理念「いつもわたしたちがそばにいます」を心に置き、1人1人が必要としているケアを見極め、その人に合ったケアを、今までの生活の延長線としてひなたで過ごして頂けるように努めています。ご家族と支え合い、出来る事を継続して共に生活をしています。コロナ禍でどこにも出かけられない中、ご近所から提案を頂き流しそめんが出来た事、通りすがり面会と称して窓越し面会が出来た事、看取りの方のご家族の面会も防護服を着ても毎日面会して頂いた事、どの事もひなたらしい出来事と思っています。いつもどんな時も寄り添い、安心できる生活がここにあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設18年の歩みは、2階の事務所に壁いっぱい貼られている「年表」を見てもよく分かる。このホームに入所してそして去っていった百名を超える利用者さん達の笑顔の写真や数々のエピソードが満載の年表である。一人ひとりを慈しみ、家族として共に過ごした軌跡が如実に表れていて心温まる。今年の夏には一人ひとりの人生の歴史の閉じ方を見守りながら、1ヶ月の間に3名を見送るという慌しい時間を過ごしたが、コロナ下にあっても最期の一時まで家族と過ごす事を優先しながら万全の対策を講じて看取りを実践し、「ここで最期まで過ごせて良かった」と、家族からも感謝された。日々、本人の気持ちに寄り添う介護に邁進している「ひなた」の今後の活躍に期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を理解し、それに添った支援が出来る様努力している。一人一人の入居者が安心して生活が送れるように職員間で更によく出来るよう話し合っている。	「〇〇さんの思い、言葉を大切にし、記録に残す」という内容の記録があった。一人ひとりを尊重し寄り添い、「いつも私たちがそばにいます」という介護の理念が実践されている事が、この文章からも読み取れた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響でイベントへの参加が難しくなっているが、地域の方が竹を切り流しそうめんの提案をして下さったりしている。良い関係が維持出来、いつも感謝している。	地域とのお付き合いは野菜の差し入れやボランティアの訪問等、様々な形で継続出来ている。また、コロナ前のようにはいかないが、地域の道づくりでは利用者・職員がゴミ拾いに参加するなど地域貢献・地域との交流はしっかり出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生ボランティアを受け入れたり、地域のケアカフェへ参加したりと毎年続けてきた。コロナ禍で難しい事増えているが機会があれば貢献出来るよう努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括と地域の方の参加となっているが意見交換や他の取り組み例を話し、参考にさせてもらったり、別の方法を試してみたり、視野を広げるように気をつけている。	コロナ下にあっても地域包括の職員や地域の方の参加の下、定期的に運営推進会議が開催出来ており、ホームの現状報告、事故・ヒヤリハット報告、身体拘束等の適正化への取り組み等、毎回詳細な資料を基に話し合っていることが議事録からも確認出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の方が参加され、ひなたでの行事報告、ケアサービス取り組み方様子の理解を得ている。不明点の相談は随時させてもらっている。	市の介護保険課の担当者には書類の事や、その他些細な事でもその都度電話して聞くようにしており、適切な助言や指導をいただきながら、常日頃から密に連携を取り合っている。9月には市の実地指導もあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を会議の中に設けている。身体拘束に該当しなくても1つのグレーゾーンの介助とならないよう研修や勉強会も行い適正なケアが出来る様取り組んでいる	職員の「グレーゾーンを何とかしたい」という言葉にもあるように、グレーゾーンについて改めて考え、何が身体拘束に当たるのか常に職員間で話し合い検証しながら一人ひとりの状態を把握し、寄り添うケアに努めている。また、外に出たい人には職員が付き添い気分転換をしてもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についてのファイルを各ユニットに置きいつでも閲覧し学べるようにしている。研修とその後の報告会で全員周知する様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を活用している入居者はいないが申込者に情報を伝えられる様必要な事は調べ学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時丁寧な説明を心掛け質問にも応じ理解を得ている。契約前から、不安や疑問点を伺い、相談説明している。改正時、解約時と同様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頂いた意見は反映させるようカーデックスに記入し話し合い出来るだけ希望に添えるように努力している。普段の面会時等に意見を頂きやすい様、声かけに気をつけている。	各利用者の担当が毎月写真を掲載したお便りを書き、状況報告をしている。ホームページにもブログをあげているので家族から楽しみにしているとメールがある。面会時や電話、LINE等で意見や要望を積極的に聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は会議の時に話し合い柔軟に考え反映できることはさせている。ミーティング実施しているが回数を増やし意見収集に努めたい。	毎日の申し送りや定期的なミーティングで情報共有や意思疎通を図り、業務が円滑にいくようにしている。勤務年数の長い職員も多いので職員間のコミュニケーションがよく取れており、意見や提案は即上層部に伝わる体制になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望に合う労働時間になるよう努め調整を行うように努力している。各自が担当、役割をきちんと出来るように他職員も協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員が行う自分評価から、各自の努力をしている部分の応援が出来る様にアドバイスしている。研修の機会を増やし、更に工夫した対応が出来る様にしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在交流は行えていないが機会があれば、サービスの質の向上に向けた意見交換が出来れば良いと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接やご家族から情報を得、入居後しっかり寄り添い、様々な方法を用いてコミュニケーションをとり、職員間で情報共有しつつ信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込みの段階より家族から困っている事や心配な事、又ひなたでの生活の意向を聞き、出来るだけ沿うようにし良い関係を築けるように気をつけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態をよく聴き、どのような生活を望まれているか話し合っている。家族はGH入居希望しているが本人の必要としている支援、他のサービス利用が良いかも含めた話し合いをしっかりとしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの出来る事を行い、それに対する感謝を伝え支え合い暮らしている。出来る事が変わって行く中で上手くサポートし今ある能力を引き出せるよう支援していきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真入りのお便りで様子や近況報告等行っている。受診の協力も得ている。個々に応じた家族との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で馴染みの場へ出掛けている 入居者も居たがコロナウイルスの影響で外出面会が難しくなっている。希望があれば通信アプリの利用も検討したい	このホームでは母と娘・姉と妹が同ユニットに入居しており、仲良く一緒に塗り絵をしたり、ジグソーパズルをしている姿を見かけた。馴染みの美容院に出かける人もいる。今は窓越し面会であるが家族の面会も多く、職員は馴染みの関係を出来る限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話やレクリエーションを楽しめる様、席の配置には十分気をつけ、時には席替えをしながら様子をみている。時には職員が間に入り会話を繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子を伺い必要があれば、相談や支援が出来る様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が望む事が出来るように希望を把握するように努力している。困難な場合は本人本位で考えどうする事がよいか検討している。	利用者の発言や仕草から、その奥を読み取るように日頃から努めており、思いや言葉を記録に残すようにしている。以前より軽度で元気な人が増え、日常的にも会話を大切にコミュニケーションを取りながら思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり家族へ生活歴を伺い本人の好み、暮らし方サービス利用の経過を聞き取り、今までのリズムを大切にしながら入居後の生活リズムを作る様努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録の記入をし、一人一人の状況が把握できるようにしている。特に心配な変化についてはカードックスだけでなく、申し送り時に引継ぎ現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の生活の様子等から課題をあげケアサービス介護計画書に繋げている。家族や関係者の意見も反映できるよう話し合いもしている。	カードックスを見ると、アセスメントやケアプラン等、その人の状態が一目で分かるようにまとめられており、生活に対する本人・家族の意向もしっかりプランに反映されている。ケアサービスプラン表も詳細で、職員間で話し合いながら現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に状況や気づき等細かく記入するようにし、大切なことはカードックスに記入し職員間で情報を共有できるようにしている。毎月の会議でも報告相談をして良い対応案を試したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の様子に気をつけ、その時のニーズに応じた支援が出来る様カードックスを利用し毎日の申し送りの把握をしている。より良い支援になる様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の有効活用がし辛い環境下ではあるが、人出のない場所へ出掛け気分転換を図る機会を設ける等の支援をしている。可能な限り出掛ける事の継続したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの関わりを大切に、本人家族の希望に添うように受診支援を行っている。情報提供を行い医療との連携をはかっている。	個々の希望に添って従来のかかりつけ医を受診する人が多いが、ホームの協力医を主治医にしている人もいる。医療と連携を取り合い、家族が付き添う時は利用者の状態を分かり易くまとめた記録を持参してもらう等の配慮をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪看時に報告相談し、適切なアドバイスをもらっている。急変時には24時間電話相談が出来る体制にあり適宜受診も出来、普段の健康管理が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時速やかに情報提供書を作成し情報交換に努めている。退院時にはその後の生活が安定できるよう情報収集し相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から家族に重度化、終末期、看取りに関しての説明を行い、その時の気持ちを伺う様にしている。利用者の状態の変化に応じた支援が出来るよう随時家族と面談し、希望に添う看取りとなるように取り組んでいる。	今年は1ヶ月間に3名の看取りをしたとの事。家族も感染対策(防護服着用)を取りながらほぼ毎日面会に来て、最期はしっかり手を握って見送る事が出来、「最期までここで過ごせて良かった」と家族からも感謝の言葉をいただいたと聞いた。これからは医療と連携しながら出来る限りの支援をしていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時用マニュアルを備えており、救急要請の手順もあり、連絡体制整っているが繰り返し研修、勉強会で職員全員確実に身につけたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、職員が順番に体験し毎回意見や感想を基に次の訓練につなげ向上出来る様にしている。また非常時の避難ルート確認や摂れる非常食の確認も行い備えている。	火災想定避難訓練を利用者と一緒に実施し、地域の人にも避難した人のチェックをしてもらった。訓練後は職員間で検証し合い、反省点は次回につなげるようにしたり、非常食のカップ麺等を利用者に試食してもらう体験もした。11月は災害訓練(水害)を予定している。	毎年火災想定避難訓練はしているが、災害訓練は少なかったため、水害に対する訓練を予定していると聞いたが、立地的には土砂崩れや台風・地震対策等の自然災害の訓練もした方が良くと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した声かけや接し方をする様心掛けています。プライドも大切にし声のトーンにも気をつけ優しい声かけに努めています。プライバシーを守る様、周囲の人の目も気にしながら対応したい。	排泄の失敗時への対応や言葉掛けにも注意を払い、羞恥心や自尊心を傷つけないように気をつけており、中には入浴時に同性介助をしている人もいます。個人情報保護や肖像権の侵害にならないような配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に選んでもらえるように誘導したり、本人が希望を伝えやすい様導くことが出来るように日頃から声かけに気をつけ支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが本人のペースを大切に臨機応変に対応出来るよう気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族により、好みの衣類が届いており季節に合った服装が出来る様にしたたり、散髪時に好みのカットになるよう理容師に伝えてたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの紹介をしたり好みを聞いたりしている。旬の食材を頂く機会にはそこから楽しい会話が始まることもある。机拭きやお盆拭き、食器洗い等個々に合った作業を一緒に行っている。	食事は生活の中でも楽しみのひとつであり、自分の箸で食べられる人が殆どであるが、一人ひとりの食事形態に合わせ、職員が介助をしている人も数名。流しそうめん会やたこ焼きパーティー、お茶会、駄菓子屋さん等の「お楽しみ会」は好評で、利用後も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態、量にしており。流動食の方には好みの味を摂ってもらえるようサンプルで試したりしている。夏季は特にこまめな水分摂取に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嫌がる方との関係性に気を付けつつ、毎食後のケアを促している。白湯を使ったり、口腔ティッシュを使用したり、歯間ブラシを使用する等、個々に応じたケアを実施支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入を行い、それを基にパターンの把握を行い声かけや誘導をしている。体調等に配慮しながら出来るだけトイレでの排泄が行えるよう支援している。	軽度で元気な人が増え、排泄が自立の人もあるが、紙パンツにパットの人が多く、表情や仕草からも排泄のタイミングを見逃さないように声かけしている。最初は自分で処置出来ていたストーマ装着の人でも徐々に難しくなり、職員も勉強しながら対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を取り入れ出来るだけ自然排便になるようにしている。軟便剤の服用をし、便秘予防に努めている。浣腸薬使用が減らせるように工夫していきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表の間隔を見て声かけ誘導し、清潔保持に努めている。好みの湯温にし気持ちよく入浴が出来る様配慮し、誘っても断られる方にはタイミングをみて繰り返し声を掛けている。	浴槽にゆっくり浸かって入浴している人が多いが、シャワー浴対応している人もいる。例え拒否がある場合でも、その人に合わせた言葉かけやタイミングを見計らって職員が上手に浴室へ誘導しており、リラックス出来るようにコミュニケーションを取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて、身体に負担のないよう、午睡して頂くようにしている。睡眠時間に合わせて、ゆったりと談話し安心して眠りに付けるよう過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果、副作用についてはおおむね理解しており、薬の変更時には薬剤師に確認する事もある。注意点は情報共有し、状態の変化に十分気をつけている。ダブルチェックを繰り返し誤薬にも気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った作業(洗い物、洗濯たたみ等)を一緒に行ったり月に一度お楽しみ会を企画し外出やゲーム、おやつ作り等楽しめる様になっている。気候の良い時は外へ散歩の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々外出をして楽しんでたがコロナウイルスの影響で施設内のみやドライブのみの外出支援となっている。人手の無い場所に出掛けおやつを食べ、喜んで頂けるよう工夫している。	初詣、花見、季節の花を観賞、ドライブ等、非日常を楽しんでもらう取り組みを出来る限り行っている。散歩コースに熊山の英国庭園があるのも嬉しい。山や川など自然に恵まれた環境なので四季折々の風景を楽しむ事も出来、天気の良い日の散歩や庭での日光浴・外気浴も良い気分転換になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない。欲しい物の希望があればご家族へ連絡している。希望があれば柔軟に対応したいと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を掛け家族と話せるよう支援している。手紙や葉書が届いた時にはわかる様に伝え喜んでもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節の塗り絵を掲示したりしている。落ち着いた雰囲気になる様整頓にも気をつけ過ごしやすい空間になるよう気を付けている。	両ユニット共リビングからベランダや庭に出られ、天井も高く広いので開放感がある。楽しみながら能力を活かせるような支援を目標に掲げ、畑仕事や家事手伝いの他、塗り絵やジグソーパズル、脳トレ、仲の良い人同士でおしゃべり等、落ち着いた環境の中で思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の様子を見ながら、席の配置を配慮し過ごしやすい環境を作ったり、利用者によっては場所を移動して落ち着いて過ごす時間ができる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、馴染みのある物を持参してもらい、心地よい配置になるように意見ももらっている。動線を考え、模様替えも行った気持ちよく過ごせるように環境整備している。	昔からカメラが趣味という男性利用者の部屋には以前自分が撮影した写真が数枚飾られ、音楽の先生だったという人の部屋にはいつでも弾けるようにキーボードが置いてある等、どの部屋もその人らしく安心して暮らせるような居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をつけ居室が分かる様工夫したり、トイレも大きく表示して迷わず行きやすいようにしている。排便時にはナースコールが押せるよう掲示しており、それを見てのコールもある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200927		
法人名	有限会社 かたやま		
事業所名	グループホームひなた 2ユニット		
所在地	赤磐市殿谷32-1		
自己評価作成日	令和4年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372200927-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県野市迫間2481番地7		
訪問調査日	令和4年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年開設18年を迎えました。多くの出会いの中で、沢山の事を学ばせて頂き今があります。介護理念「いつもわたしたちがそばにいます」を心に置き、1人1人が必要としているケアを見極め、その人に合ったケアを、今までの生活の延長線としてひなたで過ごして頂けるように努めています。ご家族と支え合い、出来る事を継続して共に生活をしています。コロナ禍でどこにも出されられない中、ご近所から提案を頂き流しそめんが出来た事、通りすがり面会と称して窓越し面会が出来た事、看取りの方のご家族の面会も防護服を着てでも毎日面会して頂いた事、どの事もひなたらしい出来事と思っています。いつもどんな時も寄り添い、安心できる生活がここにあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも私たちがそばにいます」の理念に基づき、日々変わる状況の中でも利用者1人1人の心に寄り添い、笑顔多く安心して過ごしてもらえる様努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でも旬の野菜を頂いたり、お花を見に行かせてもらい交流をしている。昨年からの避難訓練への地域の方の参加も再開でき、少しずつ交流が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントには参加できないが、オンラインや抗原検査を用いて、ひなたで行えることを見つけて取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括のみの参加から、地域の方も参加をしてもらえるようになり、更に多くの意見をいただけており、周知しケアに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括とは運営推進会議の場で情報交換を行なっている。不明点があった際は随時相談させてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1人1人の状態を把握・共有し寄り添うことで殆ど身体拘束には至っていない。状況に応じやむを得ず施錠が必要な場合は速やかに解錠できるよう職員間で協力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する書類をいつでも見られるよう各ユニットに置き、トイレ内にもポスターを掲示している。グレーゾーンについて改めて考え、見過ごされている事がないよう努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修で学び周知している。現在この制度の利用者はいないが、必要時には、支援できるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時丁寧な説明を心がけ、不安や疑問・気になる事はないか何度も確認している。改定・解約時も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会・来訪時に日々の様子を伝え、記録を読んでもらい、電話やメール連絡、思いや意見を引き出せるよう努めている。思いや意見は職員間で共有をし実践している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティングで出た意見を反映できる様努めている。疑問が出たら一緒に考える時間を設け、早く解決できるよう努めている。コロナ対策と介助の両立においては、より一層努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭状況や職員の体調を考慮し、急な勤務変更にもなるべく対応出来る様に努めている。コロナ禍でも県外家族とも会える様十分な待機期間を設けた上でシフトを調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修を受けられる様考慮しているが、コロナ禍で研修へは行けない為、オンライン研修の活用や資料を揃え回覧で周知できる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ対策や入居申し込みの場面でお互いの現場の状態等意見交換しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書や事前面談録を全員が周知し、マンツーマン対応を心がけしっかり寄り添い、様々な様子から思いを汲み取り、その人の心に寄り添うケアを心がけている。知り得た情報は些細な事でも職員間で共有する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で家族がこれまで頑張ってきた事を聞き取り、ひなたで活かす事を伝える。又、不安や困っている事、気になる事を引き出せる様、こちらから話し掛け、話し易い雰囲気作りに努め、不安を少しでも減らせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を把握し、入居してから本人が必要としている支援を見極め、家族と情報交換を小まめに行いすぐに全員で把握している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は本人にしてもらい、出来ない事を手伝わせて頂く。家事も共に行なう事で共に暮らしている者同士支え合う関係を築けるよう努めている。感謝を伝え合う事を忘れない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真付きのお便りで様子や近況報告を行う。些細な事でも報告し、ご家族の気持ちも伺いながら、共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為現在出来ていないが、馴染みの場等、居室へ写真を飾る事で思い出したり、懐かしんで頂けるよう努める。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や唱歌、洗濯たたみを一緒に行なう。レクリエーションでは孤立しないよう間に職員が入り、状態に応じて席替えを行う等努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の為行なえていないが、グリーンケアカンファレンスを行い、またいつでもひなたへ寄って欲しい事を伝える。実際季節物を下さったり、パット等寄付して下さるご家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人との会話や利用者同士の会話で引き出される事もある。言葉だけでなく、表情や仕草から読み取れる事もあり、職員間でも共有し把握する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に得た情報や、共に生活をしていく中で、好き嫌いや得意不得意の把握に努めている。その人のリズムで生活し、日課や趣味はなるべく続けていけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々記録する。勤務日以外も確認する。朝の挨拶やバイタルで確認し、少しでも変わった様子があれば職員間で共有し、その日だけでなく申し送り引き継ぎ、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付いた事があれば報告・相談し、ミーティングや申し送りを通し解決策や提案を出し合う。会議での意見や家族、医師、看護師へも相談し意見を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話を中心に記録している。特変があれば、詳しく記載し全員が把握できるようにしている。必要に応じて記録方法を変更する事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人その人に合わせた声かけや介助をしている。その日その日で違う事もある為、今必要な対応を見極め、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて地域の方や多職種へ現状を伝え意見や提案をもらっている。コロナ禍で地域資源の有効活用がし辛い環境下でもあるが気分転換を図る機会を設けていきたいと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院は本人家族の希望に合わせている。家族に対応してもらう際は事前に様子を伝えるようにしている。コロナ禍で利用者の感染リスクを考え職員のみ受診対応も取り入れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪看時に報告・相談しており、傷の処置方法や予防など学んでいる。特変時は電話相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時速やかに情報提供書を作成し情報交換に努めている。入院中の様子・状態を職員へ共有し退院後生活が安定できる様情報収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて早い段階から家族と話し合うようにしている。その都度希望や気持ちを伺い、面談録やカードックスを使い職員で共有し訪看や医師にも報告している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪看と速やかに連絡を取れる関係を築き、必要な応急処置を職員が対応出来る様になっている。急変時は救急引渡しカードを使用し迅速な救急搬送となる様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行ない、毎回意見や感想を基に次の訓練に活かしている。非常食を実際に食べてみる体験もしている。次回は避難場所を変えて行なおうと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをこめた声かけや言葉遣いをするが1人1人を尊重する事を忘れないよう心がけ、声のトーンやスピードにも気をつけている。ケア内容によっては同性介助にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の様子や性格を汲み取ったり、選択肢を作り、選び易いようにしている。その後の表情や様子にも気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、1人1人のペースで生活できるよう、その日その時の様子や状態をしっかり把握し、希望に沿える支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択肢を作り選び易いようにしている。爪切りや髭剃り、フェイス剃りを定期的に行なう。希望されたらすぐに行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みや形態を把握している。ひなたで採れた野菜や近所の方から頂いた野菜を使った際は配膳時に紹介する。野菜の収穫や下準備、お膳拭き、洗い物を手伝って貰っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	目安は設定しているが、その日の体調や季節に合わせて変更している。食事形態や量は1人1人に合わせている。美味しく食べてもらえるよう、味付けやバランス、盛り付けに工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に合わせた口腔ケア方法を行っている。口腔内の観察・把握に努めているが、自分で行なわれる方の把握が完全ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、1人1人の排泄のリズムを把握し誘導や声かけをしている。その人にあつた下着やパットを使用し、状態が変わつたらその都度話し合いを行い、必要な物を見極めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬や水分量を調整したり、ヨーグルトやバナナを摂取してもらい、便秘予防に努めている。浣腸薬使用が減らせるよう工夫していきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入浴時間がリラックスや気分転換となるよう努めている。入浴が難しい方も2人対応で行なう等工夫している。洗髪が苦手な方にはドライシャンプーを使用する等、個々に合わせて工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋で過ごす事が休息と繋がる方はTVやCDを流し、お菓子やコーヒーを出して過ごしている。体の負担を考え、午睡して頂くようにしているが、ホールでうたた寝をする方が安心して居る事もあり、その時々で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬種・効能・副作用の把握に努めている。誤薬防止の為、服薬介助前にダブルチェックを行い、未内服防止の為、薬箱を片付ける際もダブルチェックを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や特技を活かした役割作りを行なう。月に1度お楽しみ会を企画し、ゲームやいつもとは違う食事を楽しんでもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は出来ていない。ドライブや近場への散歩等コロナ禍でも外出支援を楽しんでもらえるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はいない。欲しい物があればご家族へ連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から手紙やプレゼントが届いた時は一緒にお礼の電話をしている。電話を希望されたら電話が出来るよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事に合わせて飾りつけを行なっている。季節の花を飾り季節を感じてもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて席替えや職員が間に入る事で話しが出来るようにしている。居室で過ごす方にはお茶を居室へ届け1人でリラックスして過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て馴染みの有る物を持参してもらったり、プレゼントの写真や色紙を飾り、落ち着いて過ごせる空間となるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に物を置かないようにしている。各居室には表札をつけ、トイレにも分かり易く「トイレ」と表記している。洗面台使用时、足元不安定な方の為に椅子を用意している。		